

医学研究センター

研究評価部門

椎橋 実智男
(部門長)

研究評価部門の現在の主な活動は、本学独自の研究業績データベースシステム(「業績プロ」)の運用による、本学の研究業績のデータベース化および独立行政法人科学技術振興機構が運用する「新世代研究基盤リード&リサーチマップ(ReaD&Researchmap)」と連携した研究業績の公開である。また、2013年度から「埼玉医科大学21世紀ビジョン会議」のもとに設置された「日本のMayo Clinicをめざす会」による教員の研究と診療の専門性に関するデータベースの運用も開始した。これらを通して、本学の研究活動の発展に寄与すべく活動を続けている。以下に、平成26年度の状況を報告する。

研究業績データベースシステム(「業績プロ」)について

1) 概要

「業績プロ」は、本学独自の研究業績データベースシステムで、本学の全研究者を対象に研究に関わる情報を蓄積し、学内に公開するシステムである。

<https://mrc-gdd.saitama-med.ac.jp/smsap/P300>

(医学研究センターのホームページからもリンクあり)

平成27年3月現在、医学部と保健医療学部を合わせて1,236名の研究者が登録されている。利用(アクセス)の状況を図1(次ページ)に示す。

2) 運用の状況(平成26年4月から平成27年3月まで)

- 4月 保健医療学部の教員に対する利用説明会の実施
- 5月 中央研究施設を利用した研究成果のデータの提出
- 6月 国際医療センターへの研究業績の提出
- 7月 研究に関わる人事考課のためのデータダウンロード(各研究者が実施)
- 8月 大学病院への研究業績の提出(特定機能病院)
- 12月 ReaD&Researchmapとのデータ交換の実施

3) システムの更新とカスタマイズ等

- 12月から3月にかけて、下記を実施した
- ・サーバーコンピュータのリプレース
- ・研究業績プロシステムのバージョンアップ
- ・通信の暗号化による学外からのアクセスのためのカスタマイズ
- ・筆頭著者の所属の入力などのカスタマイズ
- ・研究活動実績登録(通称ポイント制)のためのカスタマイズ
- ・教員の研究と診療の専門性に関するデータベースのためのカスタマイズ

研究業績データベース アクセス率の比較

2015.3.31

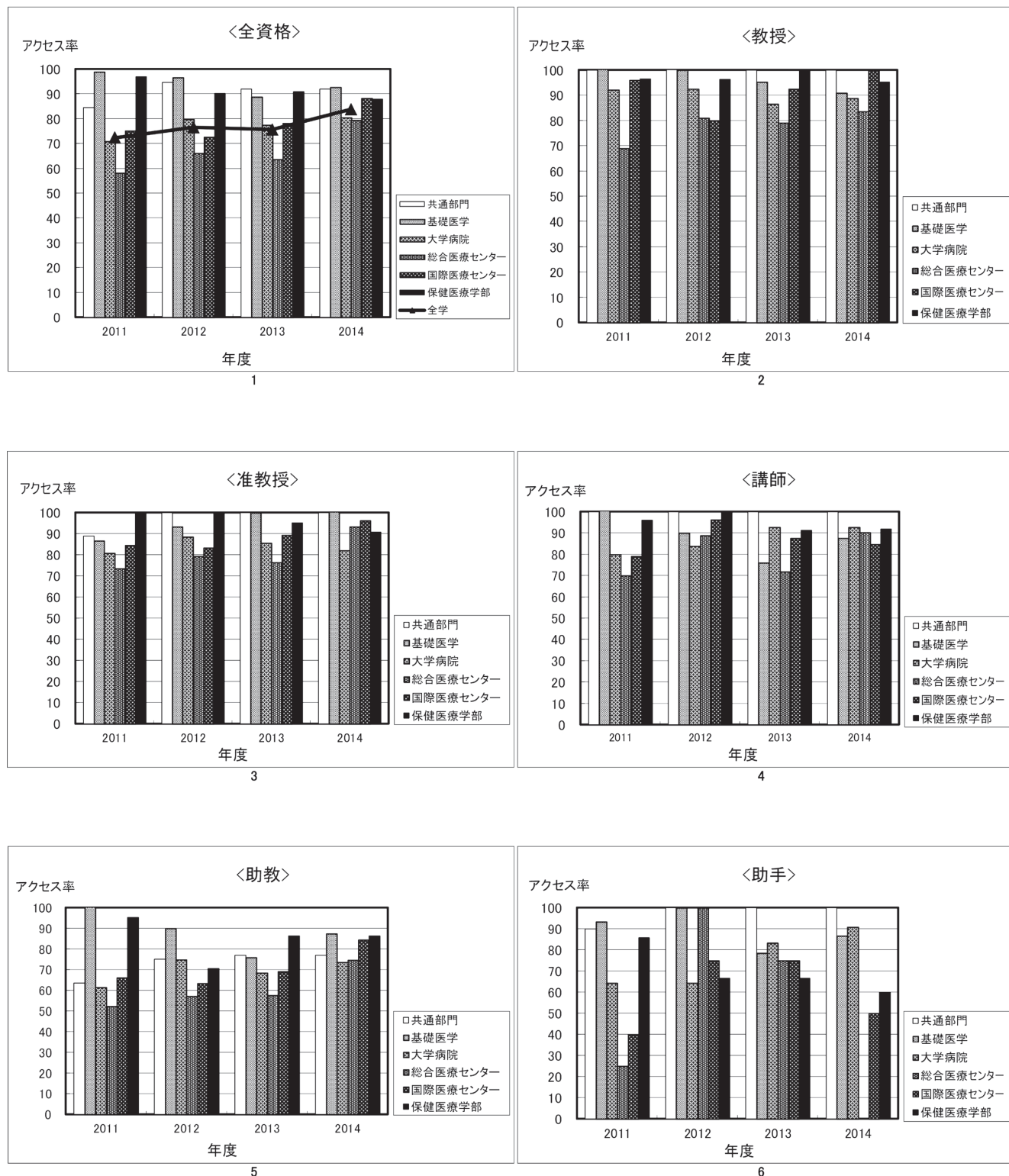


図 1.